

## 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会会議録

日 時 令和元年 10 月 7 日（月）午後 7 時から 8 時 30 分

会 場 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館  
2 階 会議室

### 1 協議会次第

#### (1) 開会

館長挨拶

#### (2) 議事

- 1 会長・副会長指名
- 2 各施設からの事業報告
- 3 各委員会からの報告及び意見交換について
- 4 その他
- 5 次回開催日について

#### (3) 閉会

### 2 出席委員（14人）

若槻委員・上茶谷委員・藤原委員・須佐美委員・入江委員・神戸委員・小澤委員  
地石委員・安田委員・木蔭委員・山上委員・杉本委員・宮委員・井手委員

### 3 事務局出席者（7人）

山本 智也 （子育て青少年拠点夢つながり未来館館長）  
前田 隆男 （子育て青少年拠点夢つながり未来館副館長）  
田中 友梨 （青少年活動サポートプラザ主任）  
尾崎 聡葉 （青少年活動サポートプラザ主任）  
今川 学 （青少年活動サポートプラザ係員）  
福井 菜穂 （のびのび子育てプラザ主任）  
伊藤 佐知子 （山田駅前図書館館長代理）

### 4 議事録

#### (1) 開会

(事務局)

本日は、お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。ただいまより吹田市立子育

て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会を開催させていただきます。

それでは、はじめに夢つながり未来館館長よりご挨拶をさせていただきます。

(館長)

皆さんこんばんは。本日はお集まりいただきありがとうございます。今日速報で出ていたのですが、2019年1月から7月までに生まれた赤ちゃんの数が90万人ということで、推計より2年早い少子化が進んでいるということです。よく言われる合計特殊出生率というものがありますが、一人の女性が何人の赤ちゃんを産むかという数字で、その数字自体は上がっているけれども、実際に生まれてくる子供の数は減っている。それはなぜかという、出産の対象となる、分母となる女性の数が減っているということです。ですから、率が上がっても子供の数が減るという現象がここ数年おきています。

少子化が進んでいっている中で、もちろん子供を産み育てやすい社会を作ることと同時に、私たちは生まれてから子供が生き生きと育っていくということが大きな課題だと考えています。ですから、夢つながり未来館でも子育て・青少年の拠点としての意味がますます重要になってくると思っています。本日も引続き当館の運営について様々な角度からご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(事務局)

ありがとうございます。

それでは、議事に進んでまいりたいと思います。運営協議会の進行に関しましては、本来であれば、吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会規則第4条第2項にもございますように、会長が議長となって進行することになっておりますが、会長及び副会長の任期が満了いたしますことから、会長及び副会長を指名させていただくまでの間は事務局の方で進行させていただきます。

まず事務局より資料確認をさせていただきます。

資料確認

(2) 議事

(事務局)

それでは早速、議事1の「吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会会長及び副会長の指名について」進めさせていただきます。吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会規則第3条では、協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから教育委員会が指名することになっております。事務局としましては、D委員に会長を、E委員に副会長を前期に引き続きお引き受けいただきたいと思いますと考えておりますが、D委員、E委員、いかがでしょうか。

(D 委員)

お受けします。

(E 委員)

お受けします。

(事務局)

ありがとうございます。

では、会長、副会長から一言ずつご挨拶をお願いします。

(会長)

引き続き会長を務めさせていただきます D です。副会長、委員の皆様とともに、夢つながり未来館の運営について考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(副会長)

副会長の E でございます。おそらく未来館はオープンして 10 年ほど経つと思いますが、他の施設と同じく素晴らしい活動ができていると思います。今後ともご協力させていただこうと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。では議事進行につきまして、会長よろしくお願い致します。

(2) 議事

(会長)

よろしくお願いします。まず初めに、本日傍聴希望者はいらっしゃいますか。

(事務局)

傍聴希望者はおられません。

(会長)

それでは、議事 2 「吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館事業報告」について事務局より宜しくをお願いします。

(事務局)

・夢つながり未来館事業報告、青少年活動サポートプラザ 事業報告

青少年活動サポートプラザの尾崎と申します。令和元年度上半期の事業報告をさせていただきます。ここでは、未来館の事業報告について説明させていただいた後に、各部署より、事業報告をさせていただきます。

ここからは事前にお配りしています夢つながり未来館事業報告を基に、大事なところをピックアップして説明いたします。こちらの画面をご覧ください。

まず夢つながり未来館全体の説明をさせていただきます。未来館を利用者にとってより親しみのある施設にするために、三施設が連携して「ゆいびあの日」事業を開催しました。8月18日に第9回夏祭りを開催しました。夏祭り実行委員会が約3か月前から準備をしてきました。今年のテーマは「令和！平和！みんなの輪！」。夏まつり実行委員会の回を重ねるごとに、実行委員のメンバーの意識や責任感が増し、自主的に準備をする青少年も現れ、青少年の成長がみられました。青少年委員、当日ボランティア、ロビーワーカー等様々な人が夏祭りに関わってくれることで新たな交流が生まれました。実行委員会のメンバーは、参加してくれる子供たちが、どのようにしたら楽しめるか工夫を重ねていました。前日楽しみで眠れないほどの実行委員会のメンバーもいましたが、当日朝早くから参加してくれました。当日、夏祭りが始まるギリギリまで、来てくれる人が楽しめるよう、実行委員会のメンバーが準備を頑張っていました。青少年委員が中心となった夏祭り実行委員会が作った巨大スマートボールには、子供たちの行列ができました。青少年お手製のキャラメル味のポップコーンは大人気でした。令和・平和の記念撮影コーナーを設けました。スーパーボールすくいのコーナーでは80個以上すくうプロ顔負けの子がいました。小さな子が参加した際には、どのようにしたらすくいやすいかなど実行委員会のメンバーが丁寧に寄り添い教えている姿は大変ほほえましい姿でした。身体を使って遊ぶコーナーでは子供から大人までチャレンジしていました。

すいたんは小さな子に大人気でした。点字でのプラバン作りは珍しく、子供たちも真剣に作成していました。ステージでは、実行委員会のメンバーで青少年委員がマジックショーを行いました。舞台上で青少年委員として施設で頑張っている事、興味がある人は一緒に活動しませんかと呼びかけを行うなど、頑張っていました。けん玉大会では、普段交流ロビーでけん玉で遊んでいる子を中心に、我こそは、未来館で一番のけん玉達人と思っている子が集まり、真剣勝負となりました。子ども・若者相談の相談者が夏祭りのボランティアに参加したり、利用者の青少年が片づけに参加してくれたりと様々な人が関わってくれました。夏祭りをきっかけに新たな交流も増えました。実行委員として参加してくれた青少年が、サポートプラザをよりよくするためにはどうしたらよいか等考え始めるなど、成長がみられました。夏祭りは、過去最高の1,922人の参加者となりました。

続きまして、青少年活動サポートプラザのご説明をさせていただきます。お配りしております、青少年活動サポートプラザ事業報告を基に大事なところをピックアップして説明い

たします。こちらの画面をご覧ください。3階交流ロビーにはたくさんの青少年が日々利用しており、青少年がそれぞれの思いで安心して過ごすことができる居場所を提供しています。悩みがある利用者が来た際には、スタッフが丁寧に話を聞き、それぞれの気持ちに寄り添う姿勢で関わりました。より専門的な対応が必要な場合は、青少年相談員と連携しました。日々、学校での出来事や、家族や友人関係のことなど、話をするにぎやかな場となりました。また、異年齢同士の遊びや勉強の教えあい等の交流が生まれました。

また、利用している様々な青少年の交流のきっかけを作っています。学習室利用の高校生を対象にアンケートを取り、交流のきっかけとしています。カチカチ選手権や握力選手権等、ちょっとした選手権を曜日ごとに行っています。行事も行っています。

こちらは、七夕の笹飾りの写真です。たくさんの人が願い事を書いてくれました。平和の折り鶴は3施設で作り、広島に送りました。絵しりとりは、さまざまな年齢の子が参加してくれ、話題のきっかけになりました。夏休みの宿題を片付けるイベントや、白玉団子を作る季節のイベントも実施しました。青少年委員会では、交流の場として、カフェイベントの開催を行いました。近隣の中学校の職業体験も受け入れています。

最後に令和元年度下半期の取り組みを簡単に説明させていただきます。施設管理事業においては、指定管理者と連携し、利用者に対するきめ細やかなサポートを行うことで、利用者にとって利用しやすい施設づくり、継続的な利用の定着に取り組みます。施設運営事業においては、青少年交流活動支援業務の委託業者との連携をより強化し青少年が安心して過ごせ、成長できるきっかけが得られる居場所づくりの取り組みを強化します。青少年委員を中心に青少年が企画から運営まで行うイベントを実施します。青少年相談事業においては、複合的課題を抱えた青少年の自立を支援するため子ども・若者支援地域協議会を中心に連携した支援を行います。相談員の専門性の向上及び、関係機関の連携強化のため研修を実施します。相談機関の周知のため、地域に出向き、出張相談会を実施します。

#### ・のびのび子育てプラザ 事業報告

続きまして、のびのび子育てプラザの令和元年度の上半期の事業報告をさせていただきます。事前にお配りしている事業報告をもとに、こちらでピックアップしてご説明します。

まずは、のびのび子育てプラザ事業について報告致します。親子教室ですが、生後2か月から育児の負担や不安感が高まるとの声を受けて、今年度は赤ちゃん対象の親子教室を細分化し、2か月ごとの生まれ月で分けて開催しています。生後2か月での参加も増えてきて好評です。その一方で、のびのび子育てプラザの来館者数については減少傾向にあります。平日の来館者数は減少傾向であります。土曜日、日曜日の来館者数は増加傾向です。これは就園する子供が増えていることも要因ではないかと考えております。

次に、一時預かり事業についてです。のびのび子育てプラザでは、お仕事をしていない保護者を対象に一時預かりを行っています。利用率については、当日の体調不良などによるキャンセルなどもあり、昨年利用率よりも少し減少しています。

続きまして、ファミリー・サポート・センター事業についてです。ファミリー・サポート・センター事業は、子育ての応援をしてほしい方と、子育ての応援ができる市民相互のボランティア活動になっています。今年度も引き続き広報活動を進めています。毎月開催している入会講習会で数名の援助会員の入会もありました。のびのび子育てプラザの他、男女共同参画センターや千里丘市民センター、岸部市民センターでも実施しました。

次に、子育て支援コンシェルジュ事業についてです。事業開始4年目を迎え、市民周知も拡がり相談予約をして来館される方が増えました。特に今年度は、保育園や幼稚園の入園に関する相談が多くなっています。また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制として「吹田版ネウボラ」をスタートし、昨年から関係機関との連携会議を開催して、取り組みの強化を図っています。「吹田版ネウボラ」につきましては、後ほどにもご説明させていただきます。

続きまして、季節の取り組みにつきましては、5月の子供フェスティバルではフロア委員の方にもご協力いただいた、牛乳パックでのいないいないばあを作るコーナー等、好評でした。7月に七夕のつどい、8月には未来館全体で平和を考えるとともに千羽鶴を広島へ送り、のびのび子育てプラザでも平和に関する絵本の読み聞かせ等を行いました。

10月2日には秋祭りを開催しました。当日の様子はこちらの画面をご覧ください。のびのび子育てプラザに入ってすぐ、もりのひろばでの様子です。左側の写真です。常時設置しておりますきっころプールに、ポットン落としときっころ流しを設置しました。右側の写真です、隣にはあかちゃん用のきっころプールも作りました。その奥の7か月未満のあかちゃんコーナーの様子です。右側の写真です。廊下でのぺったん遊びの様子です。マグネットで作った虫や乗り物などをボードにつけて遊ぶぺったん遊びです。常時遊べますが、この日も人気でした。

あいあいルームでの様子です。あかちゃん向けの低めの傾斜や、ハイハイのあかちゃんコーナーやトコトコ歩くあかちゃんコーナーの様子です。にこにこルームでの、1歳6か月以上の子供対象のサーキットの様子です。ブルーシートのトンネルを抜け、マットの山を越え、傘袋の障害物を越え、滑り台へ向きます。他には、一本橋を渡ったり、マットでのジャンプ。体をいっぱい使って遊びました。

エントランスでの、新聞紙のプールや紙ちぎり、つみきコーナーでの様子です。終わりに、職員によるキッズソーラン節を披露し、とても盛り上がりました。126組272人の参加となりました。

最後に、令和元年度下半期の取り組みを説明させていただきます。「吹田版ネウボラ出張説明会」を千里丘市民センターで開催します。

ファミリー・サポート・センターの入会講習会を男女共同参画センターで開催します。行事予定として、11月に運動会、12月にクリスマス会、1月には未来館全体でお正月あそび、2月に節分、3月には春のお楽しみ会を予定しています。下半期も、赤ちゃん交流会や転入者交流会を、市内各所で開催予定です。以上、のびのび子育てプラザからの報告を終わ

ります。

(M 委員)

「吹田版ネウボラ」について補足説明させていただきます。本日の資料に黄緑色のパンフレットと「吹田版ネウボラ出張相談会」の資料を入れさせていただいております。のびのび子育てプラザの子育て支援コンシェルジュ事業は4年目とご説明させていただきましたが、吹田版ネウボラという形では29年度から保健センターとのびのび子育てプラザが事務局となりまして吹田市で子育てに関わる事業をしている関係機関、保育幼稚園室、子育て支援課、家庭児童相談課と連携を取りながら、それぞれの事業を全体的に見ていく機能を持たせた会として実施しています。連携を強化するための会議を年2回庁内で行っておりまして、こういったケースを受けながらこういった支援をしているかを訊き、そういった支援であればこちらでもできるよといったきめ細やかな子育て支援ができる仕組みを作っています。ネウボラの初めての取り組みといたしまして、千里丘地域の千里丘市民センターで10月24日午前10時から午後3時までやる予定になっております。なぜ千里丘かと申しますと、公共施設まで遠い地域でして、一番近い保育園は山田保育園で、のびのび子育てプラザまでもかなり遠い、保健センターも出口町まで行かないといけない。一方で、千里丘は赤ちゃんの出生率がとても高い地域ですので、赤ちゃんを連れて出向くのが大変な地域に私たちが出向いて行って子育ての相談を受けようということで、初めてこのような取り組みをすることになりました。のびのび子育てプラザで長く小児科の講座を受け持っていたいただきました北千里の原田ドクターにご協力いただきまして、この日は朝から相談を受けていただけますし、発達支援センターから言語聴覚士、理学療法士、発達指導員にも来ていただき、それぞれのお子さんの発達に関わる専門職も一日来ていただけますので、かなりきめ細やかなニーズに合った相談が受けられるのではないかと思います。10月9日から予約を受け付けますので、もしお近くに子育てのことで悩んでおられる方がいらっしゃったら、是非この相談会をご紹介いただければと思っております。よろしく願いいたします。

・山田駅前図書館 事業報告

山田駅前図書館の伊藤と申します。令和元年度上半期事業報告をさせていただきます。

まず、「子供と本の祭り」は4月20日から5月23日までの約1ヶ月、4月23日の「子供読書の日」を中心として、吹田全館で様々な催しをさせていただきました。これは以前から吹田市全館でさせていただいている事業になります。「すいぼんを探せ」は、絵本コーナーに吹田市立図書館のキャラクターであるすいぼんをあちこちに配置しまして、小さいお子さんでも見つけたらどこにあったかマークで丸を付けてもらえるような簡単なクイズ形式でさせていただき、125人の参加がありました。4歳から小学生の方向けに絵本の主人公を当てたり絵本の内容に即したクイズを出しまして、ヒントとなる絵本をご用意した状態でクイズをし、4月27日から5月6日までの間で129人の参加がありました。「絵本の時

間スペシャル」は、5月6日(祝)に図書館職員が大型絵本などの読み聞かせを図書館絵本コーナーで実施しました。こちらが25人の親子連れでの参加がありました。

「お話会スペシャル」は5月18日に「グーチョキパー」という読み聞かせでご協力いただいている団体の方に読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなど、紙芝居だけでなく視覚的にも楽しい催しをさせていただき、36人の参加がありました。期間中に展示していた「この本読んで」という企画です。子供たちに自分が好きな本のタイトルとおすすめ理由を書いてもらって貼り出し、横にお奨め本を並べて、子供たちがおすすめした本を借りていただくという企画になっています。こちらが52点ありました。「子供と本の祭り」の報告は以上となります。

続きまして、学校連携の職業体験で、9月10日と11日、青山台中学校の2年生が2人参加してくれました。二日間、貸出、カウンター作業だけでなく、子供たちを集めての読み聞かせの体験もしてもらいました。今後も11月から1月まで4校の職業体験の受け入れが決まっております。

前後しますが、夏休みに様々な行事を行いました。7月24日(水)にMLSの会にご協力いただきまして、「牛乳パックで貯金箱を作ろう」という工作を実施しました。こちらが大変人気で30人の申し込みに足りなくて、急遽材料を集めて材料のある限り受け入れする形で、部屋に入らないくらいの子供たちがきました。この貯金箱は下に受け皿になっていて、ちょっとからくり的な貯金箱になっていて、作った子供たちも大変喜んでそれを触ってみたりなどしていて、大変人気の企画になりました。7月24日、8月6日、8月8日は、毎年やっている「一日図書館員」という企画で、小学校3・4年生と5・6年生一日4人ずつの受け入れで、職業体験よりもっと簡単なお仕事体験として、図書館の貸し出し、返却、読み聞かせなどいろんなことを体験してもらおうというものです。3・4年生が2日間8人、5・6年生が1日4人、計12人が参加してくれました。夏休みの「こわーいお話会」を実施しました。お部屋を暗くして、怖がる子もいました。お話ぼっぼさんというグループの方に出演していただき、4歳からで、子供14人、大人16人の30の方に参加していただきました。上半期の事業報告は以上となります。

下半期は、先ほど申しました職業体験や、大人向けの行事として今年24日にまなびの支援課のスポーツ指導員によるウォーキングの口座があります。また、抱っこで絵本講座やお正月には図書館福袋といって、中身がわからない本のセットの貸し出しなども行います。図書館からは以上となります。

(会長)

ではただ今ご報告いただきましたが、ご質問やご意見、感想でもかまいませんので、よろしく申し上げます。

(C 委員)

サポートプラザのカチカチ選手権は何歳くらいの方が多いのでしょうか。

(事務局)

カチカチ選手権は小学生から社会人の方まで参加されています。

(I 委員)

ひきこもり女子会というのは、これは今回初めての試みですか。

(事務局)

今回初めて開催させていただきまして、内閣府の強化推進事業で大阪府と共催で開催させていただいております。ひきこもり状態であったり生きづらさを抱えた女性を対象に開催させていただいております。今回吹田市で開催させていただきましたが、大阪府内いくつかの市町村で持ち回りで開催させていただいております。また未実施の枚方市や平野区など順繰りで一年間にいくつかの市町村でさせて頂く予定になっております。

(I 委員)

ひきこもりUXさんをお招きしてとありますが、講師で来ていただいたのですか。

(事務局)

ひきこもりUXという団体がありまして、生きづらさを抱えていたり対人関係に不安を抱えている方の当事者の会があり、全国で女子会という形で集まりの会を開催している団体になります。

(C 委員)

大阪府はなぜこれに着目されたのでしょうか。

(事務局)

ひきこもりの方が増えてきていますが、特に女性の方の集まりをさせていただいたのは、女性特有の課題を抱えているということで、家事手伝い等で男性がひきこもっていたら支援の対象に上がってくることが多いのですが、大阪府の会議で挙げられたのが女性は家事手伝いでひきこもり支援の対象と見られなかったり、女性特有の悩みで相談したいけれども男性の方がいると話しづらいという方がいらっしゃるということで、女性の集まりをさせていただいております。参加者は30人ほどおられました。当事者の方もいらっしゃいますが、お仕事をしておられても対人関係がしんどくてという方もいらっしゃる、いろいろな方が来られます。

(L 委員)

参加者は大阪からだけではなく、全国から来られます。また、内閣府の調査では、ひきこもりの人数には専業主婦等の方は入っておりません。ですから、こういう隠れてしまっているひきこもりの方を対象にした取り組みをされているところです。

(C 委員)

これについて、何か報告などは出るのでしょうか。女性が表に見えてこないという部分があると思うのですが、何人いるかとか年齢層がわからない。今世相で言われている8050問題がクローズアップされていて着目されているので、報告的なものが出てくるのかなと思ったのですが。

(L 委員)

女性のひきこもりの方がなかなか表に出て来ないので、どのような支援が必要かということで取り組みが始まったところですので、他のひきこもりの事例との違いなど、どのような傾向にあるかという具体的なものはまだ掴めていないところです。

(C 委員)

ひきこもり=アルコール依存症の問題もあるとおもうのですが、アルコール中毒の問題しか表に出ていませんが、その前段階としてひきこもりの状態にあったということを知っているのかという例もあるのかなと思ひまして。

(L 委員)

専業主婦の方など女性のひきこもりでも、いろいろ悩まれて、キッチンドリンクからアルコール中毒になるということもあると聞いております。

(C 委員)

どこかの段階で途中経過があればいいなと思います。男性と女性ではひきこもりの原因は何か違いはあるのでしょうか。

(事務局)

私どもの相談機関でいいますと、子ども・若者の年代になるので、人間関係が多いかなと思います。特に学校生活でいうと、女性特有のクラスの友達づきあいがしんどくなられて相談に来られます。仕事に関しても女性は働き方が多様で、派遣社員や契約社員からなかなか正規社員としての就労が難しいといったこともあります。

(C 委員)

ありがとうございます。

(A 委員)

参加者の年齢層はどれくらいでしたか。

(事務局)

30代から40代の方が多かったです。専業主婦で自分自身が社会との繋がりが無いであるとか、派遣社員で人との付き合いが苦手で、ひきこもっている方で久しぶりにこの女子会で外に出ましたという方もいらっしゃいました。

(A 委員)

この会の案内はどのようにされたのですか。

(事務局)

ホームページや市報、ひきこもりUXでの周知をさせていただきました。

(A 委員)

大阪府との共催ということですが、吹田市でやるのはこの1回だけですか。

(事務局)

そうですね。ただ、吹田市での開催で吹田市の方がたくさん参加されるかということと近隣住民の目もあるということで、吹田市で開催の時は近隣市の方が多く、逆に豊中市で開催の時は吹田市の方が行かれたりという形で、いくつかの市町村でやるメリットは感じておりません。

(A 委員)

必ずしも吹田市でやると吹田市の人が来るというわけでもないのですね。

(事務局)

はい。

(F 委員)

ちなみにこの時は吹田市の方はどれくらいいたのですか。

(事務局)

吹田市の人が半分くらいです。

(F 委員)

順番にあちこち回るといのは何か月に 1 回ですか。

(事務局)

2・3 ヶ月に 1 回です。

(館長)

吹田市でというわけではなく、各自治体持ち回りでということですね。

(事務局)

そうです。

(L 委員)

今回は大阪府内 6 市町で開催されます。

1 回目を吹田で開催しました。

(I 委員)

場所はどこでしたか。

(L 委員)

未来館の 4 階多目的会議室で開催しました。ある程度広い会場と、実際にはこの会議室ぐらいの、ご家族の方が待機する部屋も用意させていただいて、ご家族の中でもお話しされる場所を用意されているところもあります。

(F 委員)

なかなか良い試みだと思います。継続されて、吹田でも何回か開催していただけたらと思います。

(会長)

ひきこもり女子会という名前で開催されたのでしょうか。

(L 委員)

はい。

(会長)

今話を聞いていると、同じような状況だけれども、ひきこもり女子会という名前だから来なかったという人もたくさんいそうな印象を受けたのですが、人間関係に悩んでいたり学校生活のことで悩んでいる人は対象だとは思わないのではないのでしょうか。

(L 委員)

女性のひきこもりの方もいろんな支援機関で相談されていると思うのですが、全国的にひきこもりの女性を主に支援する団体なので、女性だけの会なら行ってみようかなという方もおられます。一度開催されるといつも多くの参加者がおられると聞いています。

(会長)

今回はひきこもりUXさんでされていたのでこういうタイトルだったと思うのですが、良い取り組みだということで市でされる場合にはどんな言葉だと人の目を気にせずに来やすいのかなと思いました。

(L 委員)

ひきこもり女子会は全国組織で、こういった活動をされている団体はまだ数少ないのでかなり広く周知されている団体になります。

(館長)

先ほど会長が言われたのは、その名前で全国で集めているものもあるけれども、この名前でそぎ落としているものもあるのではないかと、そういったところをケアするという意味で考えるのも一つではないかということですよ。

(会長)

今回はこの団体さんでしたが、今後もしされる時には来やすい名前を考えることもありかなというところですね。

他にいかがでしょうか。

未来館ではいろいろな取り組みをされていることはご報告いただいてよくわかったのですが、これがもともと計画されていたものから見てどう評価されているのか、うまくいっているのかどうか、教えていただけますか。

(L 委員)

夏祭りにつきましては例年開催しておりますが、去年からゆいぴあの日事業として、三施設連携で行っています。今年度は過去最高の参加者があったということで、目的としていた

成果は上がっているものと評価しております。

(M 委員)

三施設連携会議の中で平和の取り組みについて話し合われたと聞いておまして、去年よりも折鶴を折る方が多かったように思います。それまでもそれぞれのフロアで取り組んでいたのですが、夏祭り当日の平和のコーナーで折鶴を折ってくださる方が非常に多かったと聞いておまして、折られた折鶴を糸で通した時にかなり丁寧に折ってくださっているなというのがあったので、それぞれのフロアで平和の取り組みをされたことが形になったのかなと感じました。丁寧に話し合われてそれぞれのフロアが丁寧に取り組んだ結果今年初めて広島に送ることもできたのでよかったと思います。

(L 委員)

先ほども報告がありましたが、青少年活動サポートプラザとしては、多くの青少年の方が中心となって運営いただき、またその中で 2 階のフリールームを利用されている方で、自立に向かっている方にもお手伝いしていただくなど、予想以上の良い成果も出たと考えております。

(前田副館長)

こういったイベントは大人が準備して子供が参加するものも多いですが、未来館では出来る限り青少年に任せていこうと 3 ヶ月以上前から準備していただきました。その間、日によって集まりが少なかったり多かったりもありました。委員のみなさんの中には、当日お越しいただいた方もおられたかもしれませんが、たくさんの子供たちが来て大変にぎわい、成果だったと思っています。年によっては青少年委員の増減があったりもしますが、ここは青少年に任せていくということを大事にしていきたいと思っています。マジックショーにもたくさんの方が見に来ていましたし、1 階でチラシを配っていたのですが、ひっきりなしにお父さんお母さんがきてのびのび子育てプラザに行ってまた帰りに何をやっているのだろうと見られたり、スマートボールも長蛇の列ができていましたし、風船がほしいという子がいたり、いろんな人が参加してくれたことが大きな成果です。多くの青少年に声をかけて一人でも多くの青少年に参加してもらうことが私の役割かなと思っています。

(会長)

三施設連携という意味ではとても充実していたということですね。

(前田副館長)

そうです。

(F 委員)

先ほどのものもそうなのですが、報告なので参加人数などは知りたいところなのですが、それはあえて載せていないのですか。私は公開講座の発達障害の講座が気になるのですが、何人くらいですか。

(事務局)

40名程度ご参加いただいています。

(F 委員)

できるだけ人数は載せておいてほしいです。そうでないとよくわかりません。

(前田副館長)

中間報告の数字がなかなか固まらないので全部省いてしまったのですが、確定している数字については入れておいた方がよかったかもしれないですね。申し訳なかったです。

(J 委員)

私はここをあまり利用したことがないので基本的な雰囲気あまりよくわかっていないのですが、先ほど青少年の事業の中で青少年が企画したり運営に携わってもらっているという話を聞かせてもらった時に、イメージとして青少年というのがどういう年齢の人たちなのでしょう。また、この位置づけとしては学校やクラブがあって学生の時はこの場所をどのような思いで使われているのか、また使っている人はたくさん使っているけれども使っていない人は全然使っていないのか、どういう思いでここを利用されている方が多くて、どういう思いでサポートをしているのかその辺りを教えていただけたらありがたいです。

(L 委員)

青少年活動サポートプラザの施設運営に青少年の意見を反映するために青少年委員会があるのですが、委員構成は、中学生から29歳までの方になります。青少年の定義は法令や制度によりいろいろあるのですが、この施設の主な利用者はこの年代の方が中心となります。また、施設の利用については年齢制限はないのですが、特に学習室での勉強やスタジオでバンドの練習をしに来るなどの目的を持って来館する子、特に目的を持たず、友達やスタッフ、ロビーワーカーと過ごすことを目的に来る子などがいます。特に目的を持たずにくる子は小学生から20代で、中心は高校生となっています。

(J 委員)

ここへ来ると友達ができていろいろ話ができるという感じですか。

(L 委員)

もともとは学校の友達同士で来ることが多いのですが、ここにきて例えば中学で同じだった友達と再会するとか、その関係で他の友達ができるとか、学校を離れての友達関係もここでたくさん生まれていますし、小学生と高校生など年代を超えた関係性も3階交流ロビーでは生まれています。

(J 委員)

それは繋がりになるような何か勉強を教え合ったり話す中で趣味が一緒というとかそういう感じですか。

(L 委員)

3階の交流ロビーにはロビーワーカーというボランティアの方がおられて、その方が利用者同士の橋渡しとか、いろんな話を聞いてくれたり、遊んでくれたりする方がいるのですが、日々利用していく中で、毎日顔を合わせている間に子供同士も仲良くなり、小学生の宿題を中学生や高校生が見てあげるとか遊んであげたりすると言ったような関係が生まれていくこともあります。

(J 委員)

ヘビーユーザーがおられるということですね。

(L 委員)

そうです。

小学生中学生は地元の子になりますが、高校生の場合はかなり幅広く来られています。

5階にはバンドの練習をする音楽室があるので、目的を持ってくる子は楽器の練習をしたり、同じく5階の多目的リハーサル室は大きな鏡のある部屋でダンスの練習で使ったり、また、中・高校生は定期試験期間中には3階交流ロビーや学習室を使って勉強するために、たくさんの方が来館されます。

(J 委員)

世代間の交流があって、かつ積極的な子が委員になってもいいよということで手をあげてくれているということですか。

(L 委員)

そうですね。

(前田副館長)

通常の施設でしたら利用する時に申請書を書いたりすることが多いのですが、未来館の自由スペースはそういった手続きがいりません。勉強しに来る、友達としゃべる目的でくる子もいますが、それ以外にふらっと来てなんとなく誰かと話したり、カウンターに委託のスタッフがいたのでそこに学生スタッフがいたら勉強を教えてほしいという話もあります。

(J 委員)

3階のロビーを利用する人は多いようですが。

(L 委員)

1日、約135人、1ヶ月で約4,000人が利用しています。

(J 委員)

いろんな相談事があるというお話ですが、けっこうな件数があるのですか。相談もいろいろなレベルがあるかと思いますが。

(L 委員)

3階のロビーでは日常の青少年特有の悩みでもありますが、勉強や進学、友達関係、クラブ活動やアルバイトでの人間関係の相談などが多いようです。3階のスタッフやロビーワーカーが相談を受けていますが、深刻な相談になってくると2階の専門相談員に来ていただくということになります。

(J 委員)

ありがとうございました。

(副会長)

小学生がたくさん来ていますよね。

この辺は児童センターが山三小学校の端の方にあるんですよ。

北山田小学校からはそこまでは行けないので、児童センター替わりに来ている子がけっこういます。

中学生との交流もうまくいっています。

(J 委員)

いろいろな催しをされているのは、委員の方から提案があつてされているのですか。

(L 委員)

青少年委員が主催する事業もありますが、3階では青少年交流活動支援事業を AYS 大阪に委託しておりまして、そこで月2回以上事業をしていただく契約になっていますので、カチカチ選手権などの事業もその中の一つです。

(前田副館長)

また一度昼間に来ていただいたらご案内いたします。  
夜とはまた違う様子が見られると思います。

(F 委員)

スタジオの件ですが、スタジオの利用件数を増やしたいのか利用者を増やしたいのかその辺がちょっとよくわからないんですよ。

スタジオの利用人数を増やすということは一つの部屋に何人も入れれば増えるわけで、件数を増やすというのはまさに割合だと思うのですが、何を目指してどのようにしたいのか、利用時間の1時間前後を開けないといけないということであれば、そう考えても件数は増えないし、人も増えないわけですよ。

どういう状況を目指しておられるのですか。

(L 委員)

これは指定管理者からのご意見なのですが、18歳以下の市内の青少年であればスタジオが無料で使えるのですが、その弊害として直前で都合が悪くなってキャンセルするということが最近多くみられるということで、その場合に別の利用者が直前では入れないということで、利用者が減っている原因となっています。また、スタジオに録音機器もあるのですがプロ仕様の機材なので高校生では使いこなせない人もおり、指定管理のスタッフが付いて使用する場合もあるのですが、講習会を開いて自分たちで使えるようにして、スタジオの機能をフルに使えるようにして利用促進を図ろうと考えております。

(F 委員)

ここには大人の利用も増えていると書いていますが、大人の利用を増やしたいのか、子供の利用を増やしたいのか、どういう方向性で考えておられるのですか。

(L 委員)

大人子供に関わらず利用者を増加させたいということですね。ですから、スタジオの機材の利用法を周知していただくなど、楽器の練習以外にも多目的に、より多くの方に使っていただけたらと考えております。

(I 委員)

私は時々スタジオを利用させていただくのですが、近くに住んでいる人にとっては安いしすごく便利です。

知っている方には教えてあげたりしています。

機材の使い方もそんなに難しくありません。

(L 委員)

スタジオ1は本格的なレコーディングができる、ミキサー室を備えておりますが、スタジオ2や3より広いため、料金が少し高めの設定になっています。ミキサー室を使った本格的なレコーディングが出来ることを周知して利用者を増やしていけたらと思っています。

(I 委員)

こういうものができますということがエレベーターに貼ってあった気がします。

(L 委員)

それが講習会の案内ですね。

(I 委員)

そういう取り組みをどんどんやっていただいたらいいなと思います。

(L 委員)

楽器の練習だけではなく、こんな使い方もできるよということを知っていただけたらと思っています。

(I 委員)

大きな声で歌おうという時にいいですね。

(F 委員)

私も時々一人で歌いにきます。

使いたい時に埋まっていることが多くて、でも実は利用時間の前後1時間空いてるんですよ。それがよくわからない。

(L 委員)

メンテナンス時間ですね。

(F 委員)

メンテナンスのために1時間空けておかなければいけないのでしょうか。

(L 委員)

時間いっぱいまで使っていただけるようになっているので、そこから次の団体が入るとなると、その間にドラムが割れているとかシンバルが割れているといった機材等の不具合がないか確認させてもらったうえで、次の団体は10分前から入っていただけるという形で現在運営しております。

民間で時間を空けずにどんどん詰めて入れているという話は聞きますが、機材の予備が少ないため常にメンテナンスが必要です。

(F 委員)

民間では10分前に出てもらうようにしていますね。

その10分間でメンテナンスをしているかどうかはわかりませんが。

(L 委員)

ぎりぎりまでおられてすぐに出てくれとは言えないので、10分かかり、次の方が10分前に入られるので、その間の30分から40分で点検と次の準備をさせていただいているので、1時間のインターバルをいただいております。

(F 委員)

機械があるからメンテナンスをする時間が必要ということですか。

(L 委員)

たまにドラムのシンバルが割れていたりキーボードの音がならないといったこともありましたので、使用料もいただいておりますので、設備においてもきっちり整備して使っていただく必要があるため、メンテナンスを行う時間としてインターバルを入れております。

(F 委員)

先ほど言われていた、とりあえずおさえていて直前でキャンセルするという事はけっこうあるのですか。

(L 委員)

だんだん慣れてくるととりあえず押さえておいて、急にキャンセルするということがあります。そういったことが増えてきたので、無断キャンセルが続いた場合は次に取る時にペナルティを課すということはしております。

空いていたらいつでも使っていただける施設ですが、大人の方も都合があるので急に来て使うという訳にはいかないので、他の方も使うので使わない時は事前に言ってください、無断キャンセルが続いた場合は次の利用時に制限をかけるということをさせていただきます。

(会長)

次に、議事3「各委員会からの報告及び意見交換について」、青少年委員会、子育てフロア委員会、図書館フロア委員会の順でご報告をお願いします。

(G 委員)

青少年委員会の G です。

青少年委員会の事業報告をさせていただきます。

前回の運営協議会以降 3 回開催させて頂きまして、第 4 回は夏祭り実行委員会の活動をしたり、青少年委員会のスタッフ T シャツを作りました。

夏祭りでは、先ほどもあった通りスマートボールにたくさんの方が来てくれました。

また、料理イベントを交流活動支援事業の事業と一緒に開催することになりました。

第 5 回ではカフェイベントを行うことになり、昨年からロビーで午後 6 時ごろから高校生以上を中心に交流する場を設けていまして、このイベントでまた一人青少年委員会に入っていました。

また、その場で次のイベントであるゲーム大会の告知をさせていただきました。

そこでも T シャツをきて、イベントを次のイベントの告知の場として、またコミュニケーションの場としています。

第 6 回では、料理イベントの試作を行いました。

AYS さんが親子丼、青少年委員会ではタピオカの試作を行いました。

時間的に高校生対象のイベントなので、高校生にヒットするようなメニューを考えました。カフェは 16 名、ゲーム大会は 20 名程度来てくれ、夜に来ている青少年には青少年委員会がどのようなものか大体わかってきてもらえたかなと思っています。

以上青少年委員会の報告となります。

(H 委員)

のびのび子育てプラザフロア委員会の報告をさせていただきます。

開催日時が 6 月 25 日 (火) 10 時から 11 時 30 分、場所は未来館 2 階会議室で委員 19 名職員 3 名で行いました。

子育て講座の内容と子育てコンシェルジュの相談内容について意見交換を行いました。

意見の内容としては、子育て講座は悩んでいる時期に安心できる、対象年齢が広がることで救われるお母さんも多いと思うので検討してほしいということでした。

2の危機管理・防犯対策について話し合いをしました。

6月16日の千里山で起きた拳銃の事件の対応についての報告と意見交換をしました。のびのび子育てプラザで対応や防犯等について報告していただいた後、開館中に異変が発生した場合にはどのような対応をするのかという事に関しては、定期的な防犯訓練を行っているとの報告がされました。

安全確保については、委員さんからは自己責任で、子供を守るための知識啓蒙のために講座等も必要ではないかという意見もありました。

その他、運営協議会の報告をし、情報交換と次回日程の調整をしました。

今回は10月31日(木)朝10時からとなります。以上です。

#### (I 委員)

では図書館フロア委員会からの報告をさせていただきます。

第8期3回を7月9日(火)午後2時から3時30分まで2階カンファレンスルームで行いました。委員は5名、職員3名が出席されました。

山田駅前図書館事業報告と今後の予定について説明の後、質疑応答があったのですが、下の方に書いてある読書バリアフリーのところをご紹介しますと思います。

委員さんの中で今年6月に読書バリアフリー法が制定されたので、学校と図書館両方の働きかけで図書館と学校を回っている連絡便が増えるといいという話が出ました。

それでこのバリアフリー法と関連があるのですが、障がいのある親子への対応について、視覚障がいの親子がブックスタートの広場に一緒に参加できるように可能であれば点字付きの絵本があるといいですねという意見がありました。図書館としては点訳ボランティアの協力を得て点字のシートを貼ることが可能ではないかということで検討していることでした。その他のところで、ボランティアグループが活動している時に火災や地震が起こった時にどのように対応するのかということで、前回に質問がありまして、図書館側からは火災・地震発生時対応マニュアルを配布していただき、確認させていただきました。第8期最後でしたので、1年間の感想を出席委員に言っていただいて、ほとんどの人が図書館の活動がわかってよかった、ゆいびあのが少しわかりましたという感想でした。

次回のフロア委員会については、委員が入れ替わることもあり、決めることができませんでした。

以上です。

#### (会長)

ありがとうございました。ただいま各委員会から報告いただきました。委員の皆様、ご質問等がありましたらお願いします。

(事務局)

図書館フロア委員会からの報告で、事務局から1点だけ訂正させてください。

「ひとりのびのび読書タイム」の募集人数が10組から8組に減った理由について、ボランティアの人員減と書いてありますが、お子さんの年齢が下がってしまいましたので、保育ボランティアの同じ人数で対応できる数が減ってしまったということでの募集人数減となっています。

この場で訂正させていただきます。

(H 委員)

青少年委員会でTシャツを作られたとのことですが、資金は足りているのでしょうか。

(L 委員)

Tシャツにつきましては、サポートプラザの予算から出ています。

ユニフォームを作る必要があるということで、予算担当部署と交渉して作ってもよいということになりましたので、今年初めてユニフォームを作っていただきました。

デザインも青少年委員で考えてくれました。

(I 委員)

また是非着てきてください。

(C 委員)

子育てフロア委員会で防犯について何かもっと意見は出なかったのですか。

(H 委員)

出るかなと思ったのですが、私は阪神淡路大震災の時に子供が1歳で、水やトイレについてかなり苦労したので不安に思っておられるかなと思ったのですが、自己責任ですからとおっしゃっていて、その方は震災の経験がないのかもしれない。

(C 委員)

経験がないと難しいですね。マスメディアで想像してこうなったらこうしないといけないということを思っておられるのかどうか。

(H 委員)

ミルクや水を置いておいてほしいなど出るかなと思ったのですが、自己責任だからということで、それ以上話は広がりませんでした。

(会長)

続きまして、議事4「その他」について、何かございますでしょうか。

(事務局)

事務局よりその他議題につきまして、1点ございます。次年度からの夢つながり未来館運営協議会の開催回数についてでございます。開催回数について、今年度まで、年3回とさせていただいていましたところ、次年度より他の市の協議会等の開催回数と合わせ、定例会を年2回に変更し、喫緊の課題など協議事項が生じた場合は臨時会の開催で対応させていただきたいと考えております。開催時期につきましては、委員改正年につきましては、7月と2月、改正年以外は6月と2月の開催予定としております。よろしくようお願い申し上げます。

(会長)

それでは、議事5「次回の開催日程」について事務局よりお願いします。

(事務局)

運営協議会は概ね4ヶ月に1回開催されております。次回の開催は2月4日、14日のいずれかで考えておりますが、皆様のご都合はいかがでしょうか。

(会長)

それでは、次回の会議は令和2年2月14日午後7時から開催したいと思います。

(3) 閉会

(会長)

本日は以上になります。副会長から閉会の挨拶をお願いします。

(副会長)

本日は事業報告について、皆さんからたくさんの意見をいただきました。これから後半のクリスマスやお正月といったイベントがあると思いますので、頑張っていただけだと思います。本日はどうもお疲れ様でした。